

# 地域共生社会の実現に向け ひとり親や生活困窮者を支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した認定NPO法人ハーモニーネット未来の取り組みを紹介します。

## 安心して生活できる 地域社会の実現を目指す

近年、少子高齢化の進行や生活困窮者の増加などにより、現行の福祉制度では対応が困難なケースが増えており、子どもや高齢者、障害者などすべての人たちが、一人ひとりの暮らしと生きがいとともに創り、互いに支えあうことのできる地域共生社会の実現が求められている。

岡山県笠岡市に

ある認定NPO法

人ハーモニーネッ

ト未来は、子ども

たちの豊かな成長

と安心して生活で

きる地域社会の創

出を目的に、昭和

62年に任意団体

「笠岡子ども劇場」

として設立。その後、NPO法人格を取得す

るとともに、名称を変更し、NPO法改正後

の平成25年には県内で第1号となる認定NP

Oとして認定を受けている。

現在、笠岡市から子育てひろば「あおぞら」

や、障害児・者の日中一時支援事業、児童

館の指定管理を受け活動しているほか、自

主事業として子どもや高齢者、障害者など

誰もが気軽に集えるふれあいひろば「虹」な

どを開設している。

そのほかにも、子どもの創造性を育むため、

舞台鑑賞などの文化体験活動をはじめ、自然・

生活体験活動を提供しており、これらの活動

の参加者数は年間延べ3万人にのぼる。

### ◆団体概要

〒714-0081 岡山県笠岡市笠岡59009

TEL: 0895-63-4955

FAX: 0895-63-4950

URL: <http://www.kevne.jp/kodomo/>

設立: 平成25年9月（任意団体設立: 昭和62年）

理事長: 宇野 均恵

同法人の活動について、理事長の宇野均恵氏は次のように語る。

「設立当初は、子どもたちの心豊かな成長に向けた活動をメインとしてきましたが、家族支援、地域支援へと活動が広がり、現在は子どもから高齢者、障害者まですべての人たちの“安心”をキーワードに、互いに助け合いながら自分らしく生活できる地域社会の実現を目指しています。また、活動で多様な人たちが集うなかで、とくにひとり親家庭の置かれている状況は厳しく、支援の必要性を感じたことから、行政や支援団体と協働し、ひとり親や生活困窮者を対象にした支援に取り組んでいます」。

### ●助成実績●

#### ○平成28年度

#### 【いのちまるごとプロジェクト事業】

（助成額：693万円）

事業概要：ひとり親や生活困窮者等が自分らしく生活し、安心して子育てできる環境づくりを目的に、行政や支援団体と連携し、シェアハウスの開設や居場所づくり、子どもの貧困・DV被害者の講座などの支援活動を行うことで、互いに支えあう地域共生社会の実現を目指す事業



## ひとり親や生活困窮者の支援に取り組む

このひとり親・生活困窮者支援の取り組みは、平成28年度のWAM助成を活用し、「いちまるごとプロジェクト事業」として実施し



空き家を活用して開設したシェアハウス「ハーモニーはうす」。地域への想いのあるボランティアを募り、建物内の改修を行った



子ども食堂では、地域の高齢者と一緒に調理する過程を楽しみながら、つくった料理を参加した多世代の人たちと味わった



た。

同事業は、ひとり親や生活困窮者が安心して生活し、子育てができる環境づくりを目的に、①空き家を活用し、安心して生活できるシェアハウスの開設、②シングル親子および生活困窮者の居場所の提供、③フードバンク・フードドライブ活動の拡充、④子どももの貧困・DV被害者支援および周知・啓発、⑤ネットワーク会議の開催などを実施した。

また、事業の実施にあたっては、同法人（笠岡市）およびこれらの活動に先駆的に取り組んでいる他地域（岡山県浅口市、津山市、広島県福山市）の5団体で構成する「いのちまるごとプロジェクトネットワーク」を立ち上げ、協働して進めた。

空き家を活用したシェアハウスの開設では、寄贈を受けた一軒家を整備し、ひとり親や生活困窮者が安心して生活できる住まいを提供することを目的とした。

開設したシェアハウスについて、副理事長の横谷明子氏は次のように語る。

「シェアハウスの入居可能数は、母子家庭3世帯と独居高齢者1世帯としていますが、DV被害者などの緊急時の住居として活用することも想定しています。ひとり親に『どのようなことが困るか』を聞くと、子どもが病気になるとう仕事を手まなくてはいけないという声が非常に多いのですが、シェアハウスに元気な

高齢者がいれば、子どもの面倒をみてもらえるといった入居者同士の助け合いが可能になり、高齢者にとっても生きがいにつながるのではないかと考えています」。

助成期間中の入居者はいなかったものの、短期間の宿泊などに活用されており、現在はひとり親家庭の1世帯が入居している。また、同法人とつながりのあったシングルの看護師に声をかけたところ、転居して管理人のような役割を担うとともに、入居者の相談に対応しているという。

## 多様な居場所支援を 広域的に提供

ひとり親や生活困窮者が気軽に集うことのできる居場所の提供では、交流食事会やひとり親を対象にしたカフェ、子ども食堂、学習支援等を実施した。これらの居場所支援は、同法人およびネットワーク団体の拠点を活用して広域的に開催しており、運営自体も各団体で行われている。

笠岡市で毎月開催した交流食事会「ぼけっとリンク」は、地域の誰もが参加できる夕食会で、おいしく食事をしながらアドバイザーに悩みの相談ができる場とした。飲酒も自由でリラックスした雰囲気ななか、相談者の本音も出やすく、生活課題の発掘につながるケースも少なくなかった。

周知方法としては、ホームページのほか、笠岡市の子育て支援課の協力を得て、案内チラシを市内のひとり親世帯（約600世帯）に全戸配布した。全10回の開催で延べ415人の



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

参加があり、ひとり親家庭の親子をはじめ、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の参加があった。

ひとり親を対象にした「しんぐるまざあずカフエ」は、笠岡市(全7回)、津山市(全11回)、福山市(全10回)で開催した。同じ境遇にある母親同士が、人には話しづらい悩みを共有しながら、アドバイザーに気軽に相談できる場となっており、3会場で計180人が参加した。

また、これから離婚を考えている人の相談に対しては、利用できる行政サービスや各種手続きの情報を提供するとともに、離婚が子どもに与える影響を母親に寄り添いながら伝えることで、最適な判断ができるよう支援した。

## 子ども食堂を「食を通じた共生型の居場所」に

子ども食堂は、笠岡市(全7回)、津山市(全



塾に通えない家庭環境の子どもを対象に実施した学習支援の様子。学習指導のほか、進路などの相談にも対応した



左から副理事長の横谷明子氏、増岡衣里氏

料理を習う若い母親も多く、料理を通じて親子のコミュニケーションや、多世代交流が図られる場となった。そのほかにも、経済的な理由などで塾に通えない子どもの学習支援を、笠岡市(全7

8回)、浅口市(全20回)、福山市(全17回)で開催しており、実施主体により、さまざまな運営スタイルがあるなか、笠岡会場では支援対象を生活困窮家庭に限定せず「食を通じた共生型の居場所」をコンセプトに掲げた。

「ターゲットとしているのは生活困窮家庭の子どもになりますが、対象者を限定すれば、その子どもたちが参加しづらくなることを懸念し、子どもから高齢者まで誰もが参加できるようにし、地域づくりの拠点とすることを目指しました。実施内容としては、地域の料理好きな高齢者に協力してもらい、調理方法を教わりながら出来上がった料理を参加した多世代の人たちと一緒に楽しくいただきました。食事のメニューには、地元の特産品や食材を用いた郷土料理を取り入れ、出汁の取り方や下ごしらえなど、本格的な調理方法を教えることで食育にもつなげる活動としています」(宇野理事長)。

子ども食堂は4会場で計805人の参加があり、子どもだけでなく、高齢者から熱心に

回)と津山市(全22回)で実施。塾の講師や学生ボランティアに協力してもらい、学習の指導や進路などの学習相談を行っており、2会場で計100人が利用した。

併せてこれらの居場所支援の参加者には、同法人が行う舞台鑑賞などの各種イベントに招待し、文化・生活・自然体験の機会を提供した。

また、同法人は県内にあるフードバンク団体の設立に関わり、企業から寄贈された食品が集まる笠岡における拠点としての役割を担ってきたが、交流食事会や子ども食堂で活用する食品の調達や、必要とする人に食品を届ける仕組みづくりを目的に、フードバンク・フードドライブ活動の拡充を図った。

活動を普及させるための取り組みでは、食料の寄贈を呼びかけるチラシやのぼりを作成し、ネットワーク団体や行政、社会福祉協議会などを通じて、市民や企業に広く周知したことにより、助成期間中の実績は寄贈件数724件、総重量1560kgの食料を調達することができた。

## DV被害の支援者を対象とした養成講座を開催

さらに、母子家庭はDV被害者であるケースも多く、深刻な状況が身近にあるにも関わらず、その現状が知られていないことから「子どもの貧困・DV被害者支援」として、子どもの貧困とDV被害についての現状や正しい理解を周知するために、養成講座の開催とリーフレットの作成を行った。



「各ネットワーク団体とは頻りに連絡をとっていましたが、年3回開催した『ネットワーク向けに検討を行った。』

実施に向け、連携団体と「ネットワーク会議」を開催し、進捗状況の把握やよりよい支援に向けて検討を行った。

そのほかにも、助成事業では円滑な事業の実施に向け、連携団体と「ネットワーク会議」を開催し、進捗状況の把握やよりよい支援に向けて検討を行った。

支援者を対象にした「DV被害者によりその人のための養成講座」(全3回)では、ネットワーク団体の専門職や弁護士を講師に招き、DV被害の現状や支援に必要な知識、法律について学んだ(受講者数計123人)。

また、正しい理解を広めるために、ネットワーク団体と共同編集したリーフレット「もしかしして:DV?」(8000部)、「別居・離婚を考えているお母さん・お父さんへ」(5000部)を作成し、支援団体や行政、児童相談所などに配布した。

とくに「別居・離婚を考えているお母さん・お父さんへ」は、子どもの目線に立った情報を掲載しており、配布先の支援者からも好評で追加の要望が殺到し、現在は在庫がわずかとなっている。

全3回開催した「DV被害者によりその人のための養成講座」は、計123人の支援者が参加し、DV被害の現状や支援に必要な知識を学んだ



## 互いの多様性を 認めあうことが重要

認定 NPO 法人ハーモニーネット未来

理事長 宇野 均恵氏



助成事業では、支援団体とネットワークを構築して支援に取り組みましたが、円滑な連携をしていくための秘訣として、互いの多様性を認め、各団体のやり方や考え方を尊重しあうことが、それぞれの団体がもつ強みを活かすことにつながると考えています。

例えば、共同編集したリーフレットは、団体ごとに支援に対する強いこだわりや想いがありますので、まとめるのは非常に苦労したのですが、内容について高い評価を受けることになりました。

行政との連携においては、担当者によって支援への想いが違いますし、異動も少なくありません。そのため、関係性が途切れないよう、さまざまな部署とつながりをつくる必要があります。このような関係性をつくることは事業を継続させていくためにも重要だと考えています。

ク会議」には、ネットワーク団体のほか、連携団体や行政にも参加していただきました。笠岡市からは人権推進室、地域福祉課、子育て支援課に部局横断で参加してもらい、情報提供を受けるとともに、課題の共有も図っています(横谷氏)。

平成29年3月には、助成事業の報告会を開催し、それぞれのネットワーク団体が成果報告を行い、参加者に対して支援の必要性を呼びかけている。

助成事業の成果について、副理事長の増岡衣里氏は次のように語る。

「ひとり親や生活困窮者に対し、相談できる居場所があることを広く発信し、利用につなげることでできたと考えています。また、助成事業を通じて支援団体とネットワークを構築し、それぞれの支援団体もつ専門性を活か

かしながら、社会問題の解決と一緒に考えることができるようになったことも非常に大きな収穫となりました。これまで当法人は多様な人たちに「安心」を提供することを目指してきましたが、利用者だけでなく支援者である私たち自身も「安心」して支援に取り組めるようになりました。

地域共生社会の実現に向け、支援団体や行政と協働し、さまざまな支援活動に取り組む同法人の活動が全国に広がるのが期待される。

## WAMからひと言

こども劇場の活動により培われた市域を超えた支援団体および行政との密なネットワークを活かし、具体的な目標を定めた連携を行ったことで、笠岡市における「子ども食堂」の制度化やこれまでにない当事者に寄り添うリーフレット制作等の大きなインパクトにつながっていた点を高く評価。今後も継続的な取り組みが期待されます。

NPO等の民間福祉活動への  
応援よろしくお祈いします!

### 寄付金のお願い

当機構では  
寄付金を募集しています

お問合せ先: 03-3438-0211(総務部総務課)



社会福祉振興助成事業に  
関するお問い合わせ

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)

TEL : 03-3438-4756

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)

TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

